

# ろくおん通信

## No. 140

発行日 2005年6月15日  
発行 盲人情報文化センター  
録音製作係

聴いてわかる録音図書を作るために (第7回)

## 「原本通り」ということ ～いろいろなルビについて～

久保 洋子

今回は「ルビのついた語」の読み方について考えたいと思います。  
一口にルビと言っても実際には様々なものがあります。

漢字にふり仮名をつけたものはルビだけを読みます。漢字に外国語をルビとしてつけたものもよく出て来ます。

これらの他にも業界用語 ex. 刑事(デカ) 犯人(ホシ) など、漢字本来の読み方でないルビが付けられていることがあります。

これらを墨字の本で読む時、カタカナの外国語を知らなくても、漢字を見れば意味がわかる、デカ、ホシなどの特殊な言葉を知らない読者も漢字を見ればその意味がわかります。ということはルビも漢字も両方読むことが原本通りということです。

迷った時には辞書をひいてみて下さい。ルビの言葉を国語辞典でひいて、その漢字が出てくればルビはふり仮名ですから、そのままルビだけ読めばいいのです。その漢字が出てこない時には、ふり仮名ではないので、一度はルビと漢字両方を読むべきだと思います。

「原本通り」は言い換えれば晴眼者が墨字の本を見て得られる情報をすべて正しく伝えられるように読むということです。

これはルビだけでなく漢字の補足、図・表の説明など音声訳のあらゆる場面で基本的な大原則です。まよったらこの原則に立ち返って考えてみてください。

etc      あやかし      ここ      ポエム      こぶ  
妖怪      東京      詩      葱

## デジター編集についての Q&A

Q 初心者のデジター編集講習会は締め切られたと聞きましたが、次回の講習会はいつごろありますか

A 今回の初心者のデジター編集講習会は毎日新聞大阪社会事業団の協力で実施するものです。定員25人はすぐに埋まってしまいました。次回のデジター編集講習会は、今回の講習会終了後、次回の講習内容を検討します。次回は8月以降を予定しています。日程につきましては、『ろくおん通信』などでお知らせします。

## デジタル録音についての Q&A

Q デルのノートパソコンを購入したのですが、ダイレクトに録音すると雑音が入るので、雑音無くする為にはどうしたらいいのでしょうか。

A 以前、『ろくおん通信』でデルの一番安いノートパソコンでも、あまり雑音も入らずに録音が可能と紹介したことがありました。しかし、最近のデルの一番安いノートパソコンでは、ダイレクトに録音すると雑音が発生するようになっています。パソコンで録音する場合、外付けのオーディオキャプチャーを使用する必要があります。オーディオキャプチャーは、15000円～17000円程度します。

※ ローランド株式会社 EDROL (USBオーディオキャプチャー) 価格17000円

自宅にソニーのカセットデッキをお持ちの方は、カセットデッキをオーディオキャプチャーの代わりに使用することができます。方法は、カセットデッキにマイクとカセットテープをセットし、ポーズ状態にします。カセットデッキの全面にあるヘッドホンジャック（カセットデッキの後ろにあるラインアウトからではありませんのでご注意ください。）からパソコンのマイク入力（ステレオ標準プラグ← →モノラルミニプラグ）に繋がります。ダイナミックマイクでも電池式のどのマイクでも使用できます。（パソコン用マイクは駄目）一度おためし下さい。

盲人情報文化センターでは、2005年度より、「PRS Pro」を使ってデイジー図書を先に製作し、テープ図書は同ソフトを使用して自動編集で作成する方式に切り替えています。それに伴い、編集の順序なども若干変わっていますので、今回から、デイジー編集について連載で掲載します。

## <第1回>

### はじめに

デイジー編集は、これまではカセットテープのマスターとなるMOを元に行っていましたが、今後は、MOは最初からデイジー図書用（これまでの粹アナは入っていません。「〇〇(書名)MO〇枚目」とコメントしています。）として録音しています。

カセット用のMOはデイジーが完成してから、別の担当者がデイジーのPCMの元データからカセットマスターを作成します。元データからカセットテープのマスターを作成しますので訂正作業など必ずPCMの元データで行うようにしてください。

### これまでと編集が変わった点

- ①書名、著者が入れ替わる →注意
  - ・書名と著者名をワンフレーズ化しない
  - ・書名と副書名はワンフレーズにしない
- ②書名の字の説明は著者名の後に →奥付が最後になったため
- ③著者紹介と奥付は原本通り最後に入れる
- ④追っかけ編集ではなく、編集者は音声訳完成一ヶ月前くらいに決めていく。
- ⑤デイジー校正後の訂正作業などは必ず元データで行う。 PCMの元データで訂正

## 1. デイジー編集の流れ

①編集者は編集依頼が来たら、原本を見ながら「デイジー編集上の処理」を作成し、係に提出してOKが出てから編集にかかる。目次だけでなく、本文などを見ながらセクション、グループなどの処理を検討し、処理表に記入する。索引や登場人物紹介、参考文献、年表などの処理も検討する。

②MOのデータからインポートし原本を見ながら編集（一校または二校の訂正が終了したものを順次編集）→ものによっては1校で編集するものもある。

階層化、グループ、フレーズなどを適切に処理していく

③気づいた誤読を校正表にあげ、順次訂正依頼する

④デイジーの編集が一通り終わったら、「編集者から音声訳者への連絡票」を使って音声訳者に「デイジー図書凡例」「終わりの粹」の依頼をする。

（※「終わりの粹アナ」では「デイジー校正者名」も忘れずに依頼する

⑤ ④で依頼したデータが音声訳者から戻ってきたら、編集してCDに焼き、プレクストークで、デイジー校正チェック表に基づいて必ず確認してから、デイジー校正者に校正を依頼をする。

⑥デイジー校正表に基づいて音声訳者への訂正を依頼し、デイジー編集完了後プレクストークで訂正箇所を確認して、ブックトラックへ作品ボックスを置く。

⑦カセットテープ用のマスターを作成する為に、完成PCMデータのホルダー名を「録音図書製作進行表」に記入する。

注意！ CDに焼きつけたデータではないので注意する。

☆☆ 問題がなければ完成 → 受け入れ → デイジー図書発表  
→ 元データよりカセットマスター作成 → カセット発表

## 2. 編集にかかる前に

=PRS簡易マニュアル= (V2.01.00.29)

1 PRSを開く

2 **初期動作選択**: 作る

3 **録音音声フォーマット**: PCM 22.05kHz mono

4 **プロジェクトフォルダの入力**: \_\_\_\_\_ ←各自（名前の入った）の  
リムバブルハードディスクドライブを指定

5 **ファイル名**: ○○○○←原本タイトルにちなんだ名前を入力  
(半角アルファベット8文字迄で統一)

- 6 **書誌情報設定** : タイトル、著者、ISBN、発行者、（日本ライトハウス盲人情報文化センター）、朗読者（音声訳者名を入れる）、編集者（編集者名を入れる）  
※識別名、ジャンルとスキームは入力しない。
- 7 MOをドライブにいれる。
- 8 **ツール**
- 9 **音声インポート**
- 10 **録音設定** （ほとんど設定変更なし） ※2枚目以降は調整もあり。
- 11 **音声インポート設定**
- 12 **ファイル選択**
- 13 リムーバブルディスク（MOドライブを選択）
- 14 音声インポート開始
- 15 音声インポート終了
- 16 7. ～15. まで巻数分繰り返す。※注意 2回目以降は必ず次行（空白セクション）にインポートすること。
- 17 編集開始
- 18 編集作業
  - ・編集を別の日に続けて行うとき→初期動作選択は「開く」を選択
  - ・訂正などの作業は必ず、カセットに反映させる為に元のPCMのデータでおこなうこと
- 19 編集作業完了
- 20 **ツール** （ビルドブックのアイコンを押してもよい。）
- 21 **ビルドブック**

22 ツール

23 音声エクスポート

24 録音音声フォーマット設定

25 音声フォーマット: MP3 64kbps monoを選ぶ。

26 保存する場所: \_\_\_\_\_ ←各自のHDDを指定する (※フォルダではない)

27 プロジェクトフォルダ名の入力

ファイル名: 5. のファイル名の後にA B Cなどを付けて区別する

28 音声エクスポート終了

29 エクスポートしたファイルを開く

30 **ビルドブック** ( ※ discinfoを書き換えるためにもう一度ビルドします )

31 PRSを終了

32 Record Now Maxを開く (無い場合は、他の「CD焼きつけソフト」)

33 CDの書き込み

34 「録音図書製作進行表」にPCMの元データのフォルダ名を記入しておく

※セクションやフレーズの多いタイトルは出来るだけ低速でコピーが安全。

※Daisy校正済みの訂正は常にPCM (元の方) で行い、(20)~(30)を繰り返します。

今回から、テープライブラリー西宮の鳥生次郎氏 (盲人情報文化センターの編集ボランティアでもあります) にシリーズで、PRS Pro (デイジー編集ソフト) を使って「カセットテープからデイジー図書を作成する方法」をシリーズで紹介します。

## カセットテープからのデジータ図書作成(その1)

近年のデジータ図書製作環境の進歩はめざましい。音声と文字や図がシンクロしたマルチメディア DAISY 図書を財団法人日本障害者リハビリテーション協会(以後略してリハ協)から提供されるソフト SigtunaDAR3JP を用いて作成することができる。また、見出し(ToC:Table of Contents)と音声だけのデジータ図書についてはリハ協から提供される編集ソフト MyStudio PC やシナノケンシ株式会社から販売されている PLEXTALK Recording Software Pro(以後略して PRS)を用いることにより、以下のようないろいろな方法で作成することができる。PRS は録音音声フォーマットの選択肢が多いこと、テープエクスポート機能がある等の点で自由度が多いが、MyStudioPCとPRSは基本的には同じ編集ソフトであると言える。

今号より数回にわたって PRS を用いてカセットテープからデジータ図書を作成する手順を、筆者の所属するボランティアグループで行っている例を中心に紹介する。パソコン環境ほかデジータ図書製作環境はそれぞれのグループで異なるので、一つの参考としていただけると幸である。

### 1. PRS によるデジータ図書作成

筆者の所属するグループ同様、カセットテープからデジータ図書を作成しているグループは多いと思う。この他にも、PRSを用いると図に示すようないろいろな方法でデジータ図書を作成することができる。

①カセットテープからテープ転送により、または②マイクからのダイレクト録音により PRS 編集画面に音声を取り込むことができる。

MO レコーダー等で録音された③音声ファイル(wav データ等)を音声インポートにより PRS 編集画面に取り込むことができる。

また、長編の原本を数人で分割して編集した複数の④デジータ図書を DAISY インポートにより PRS 編集画面に順次取り込んでまとめることもできる。分割して編集した成果はインポートした編集画面にそのまま受け継がれる。

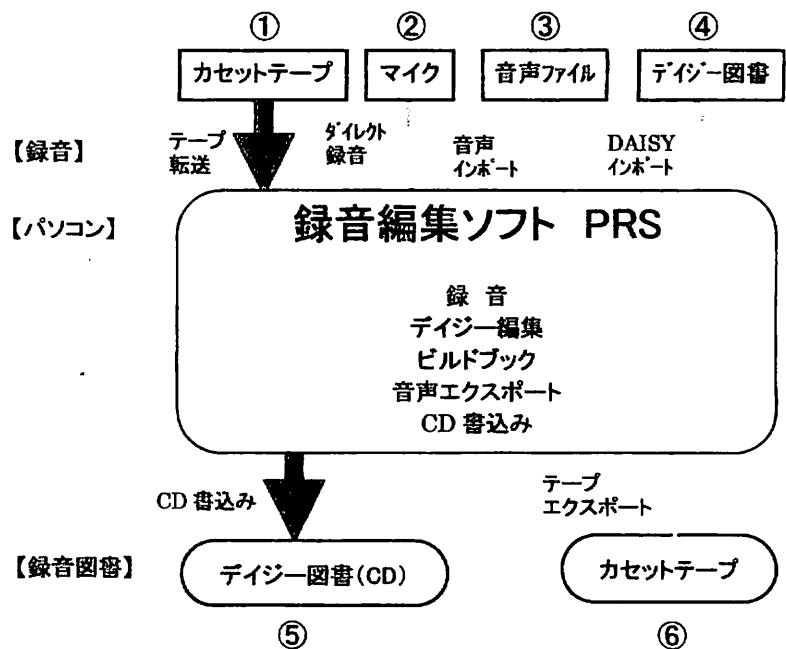
以上のようないろいろな方法で PRS に録音、インポートされた音声データを編集して⑤デジータ図書を作成することができる。また、PRS 内で編集したデジータプロジェクトまたは整理された音声データをテープエクスポートして⑥カセットテープを作成することもできる。今回のシリーズでは PRS を用い、①カセットテープから⑤デジータ図書を作成する手順に絞って紹介する。

### 2. パソコン等の設定

#### 2.1 カセットテープデッキ

カセットテープを再生して PRS に音声を取り込むには2倍速再生機能があるステレオカセットデッキ(例:SONY 製 TC-RX1000T)などがあると時間が節約できる。もちろん、通常のカセットプレーヤーでも問題ない。

図 PRS によるデジータ図書作成



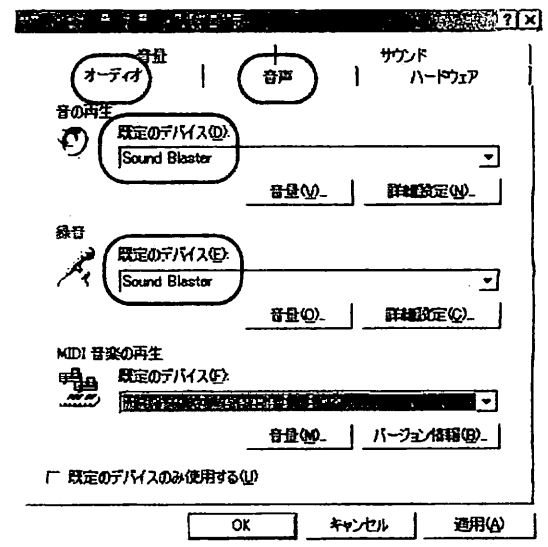
## 2.2 オーディオインターフェース

図書館等でデジ編集を行う場合はデスクトップパソコンを用いる場合が多いので、ノイズなどの問題はない。ただ、良い音質を確保するためにオプションでオーディオカード(Creative社のSoundBlasterなど)が装着されている場合があるので、パソコン裏面の拡張スロットに装着されたオーディオカードのライン IN 端子にカセットデッキからの出力を、ライン OUT 端子にスピーカーを接続する必要がある。

一方、ノートパソコンにはマイク端子とイヤホン端子しかなく、ライン IN 端子の無いものが多い。マイク端子を使って録音した場合オーディオ信号に異常に大きなノイズが乗ってしまう場合が多い。これを改善するため外付けのオーディオ回路いわゆるオーディオインターフェースを USB 接続して用いる。筆者の使用しているノートパソコン(SOTEC製、WL2130C)にもオーディオインターフェース(Creativ社、Sound Blaster Digital Music、9,800円)を USB 接続して使用している。このオーディオインターフェースにはライン IN 端子、ライン OUT 端子、マイク端子、イヤホン端子がありパソコンの録音ボリュームコントロールも正常に使用できる。オーディオインターフェースによってはパソコンの録音ボリュームが使用できなくなる場合もあるので注意が必要。

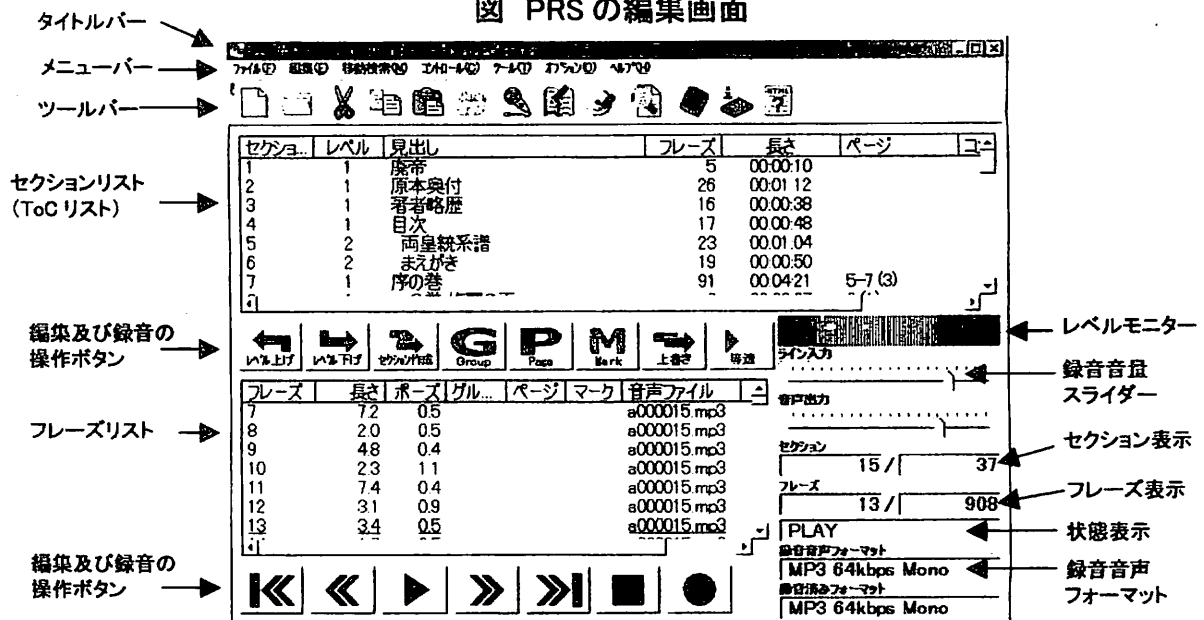
オーディオインターフェースをノートパソコンに接続し、デバイスドライバーをインストールしたら、オーディオインターフェースが動作するように設定する必要がある。Windows XP の場合の例を以下に示す。  
 [スタート]→[コントロールパネル]→[サウンドとオーディオデバイス]の順に[サウンドとオーディオデバイスのプロパティ]画面を開き、[オーディオ]タブ画面の[音の再生]及び[録音]はインストールしたオーディオインターフェース(例:Sound Blaster)を規定のデバイスとして選択する。[音声]タブ画面についても同様に選択し、[OK]ボタンをクリックして設定完了。

図 サウンドとオーディオデバイスのプロパティ画面



次回から音声インポート、編集について紹介するが、それに先立ち PRS の編集画面を以下に示しておく。

図 PRS の編集画面



(つづく)

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)